

米国ハワイ州ペローズ空軍基地におけるオスプレイの事故に関する意見書

去る5月18日に米国ハワイ州ペローズ空軍基地において米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV-22 オスプレイが訓練中の事故で乗員2名が死亡、多くの乗員が負傷した件で、事故機と同型のMV-22 オスプレイ 24機が常駐する普天間基地では翌19日から飛行を自粛するどころか住宅地上空で訓練等を行っていることに對し、日米両政府は飛行中止もせず、危険を放置することは断じて容認できない。

本市においては2004年8月に沖縄国際大学に墜落激突炎上したCH-53ヘリなど、他の軍用機の訓練も日常的に繰り返され、市民の生命・財産は常に危険にさらされ、その不安と恐怖は極限に達している。

よって本市議会は、今回の事故は市民に直接の被害はないものの事故機と同型のMV-22 オスプレイが常駐し、原因究明もなおざりにされ飛行訓練を続けることに強い怒りを持って、米軍とそれを放置する日本政府に強く抗議し、下記の事項を速やかに実現するよう強く要請する。

記

1. 普天間基地配備のMV-22 オスプレイの即時撤去
2. 普天間基地を絶対に固定化することなく、一日も早い閉鎖・返還

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年6月11日

沖縄県宜野湾市議会

〈あて先〉

内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方対策担当大臣

外務省沖縄担当大使、沖縄防衛局長